

▶センターの目的と概要▶組織構成

センターの組織構成

現在、京都府内および近隣において、現場の教師や地域住民と教育学研究科の教員や学生・大学院生との間での協働的で継続的な研究・実践が展開されています。こうした既存の教育学研究科と教育現場とのコラボレーションの取り組みを、それぞれ「学校教育改善ユニット」「新しい教育関係ユニット」「教育空間創造ユニット」という3つのユニットとして組織しました。

「学校教育改善ユニット」では現在、京都市立高倉小学校、寝屋川市立田井小学校、滋賀県立膳所高等学校をフィールドとして、教師の授業力を高めるために、大学院生が、授業の計画・授業の観察・授業の振り返りを、教師とともに実施する取り組みを進めています。また、全国スクールリーダー育成研修(E. FORUM)も行っています。そして、「新しい教育関係ユニット」では、「不登校」の子どものための学校である京都市立洛風中学校において、事例を検討するカンファレンスなどを通じて、学校運営に助言を行うとともに、すでに「新しい教育関係」を築いてきた各地の学校との連携をめざしています。さらに、「教育空間創造ユニット」では、京都府で唯一の「村」である相楽郡南山城村の野殿・童仙房地区において、大学院生が中心となって、住民と協働して新しい教育空間を創造する試みに着手しています。そして、各ユニットにおける個別のコラボレーションを領域横断的で組織的なものへと発展させることで、いずれは学校などが抱える実践的問題をセンターが窓口となって受け付け、問題を厳選して研究科としてその理解と対処に取り組むことを企画しています。

なお、教育学研究科の進める大学院生の主体的研究プログラムである「研究開発コロキウム」や、中国などとの国際的な学術交流の取り組みとも連携しながら、以上の取り組みを進めていきます。

